

佐世保発!

オペラといえは敷居が 違くないが、石多エドワ
高そうだが「カルメン」 ードさん(61)は「総合芸
は耳慣れた曲でついでい 術というなら人間の総合
ける。くだけてオペレッ
タ「ごうもり」も楽しい。

旋律美では「カヴァレリ
ア・ルスティカーナ」。



映画「ゴッドファーザー 性が生かされて初めて本
PARTⅢ」では劇中劇 当のオペラ。人間の可能
として、映画の悲劇的ラ 性を生かす場としてとら
ストへと導く。 えたら面白い」と話す。

目にするオペラの舞台 東京を拠点に各地でオペ
は、優れて選ばれた人々 ラ愛好者を指導し、障害
が作り上げる総合芸術に 者も舞台に立つ公演も手

かけ、長崎と無縁の人で
もない。

武蔵野音大の後輩だっ

た妻加代子さんが波佐見

町で400年続いていた

窯元の娘。天正遣欧少年

使節を題材に9年初演し

そ、新しいものが生まれ

ると考えた。本を読み、

美術館を歩き、クラシッ

クを聞きまくり、あるし

Pに心動かされた。ベー

トーベンの後期弦楽四重

奏。「四つの楽器が語り

母親がスペイン系フィリ

ピン人で、戦後、母親の

おなかの中において佐世保

に引き揚げ、大阪で生ま

れ育った。ハーフゆえに

経験した差別があって、

弱者への視線がオペラ活

動にも生きる。そんな石

多さんと加代子さん夫婦

の長崎では初となるリサ

イタルが開かれる。29日

オペラ、オペラ

た創作オペラ「忘れられ

た少年」は、欧州を含め1

20回の公演を重ねる。

オペラとの出合いは遅

い。高校のころ、盛んだ

った学生運動に違和感を

感じて古典を吸収してこ

かけ、心のひだをこんな

に表せるのか」と。作曲

家を志すものの大学受験

まで3カ月。声がいいか

らと声楽科で受験してオ

ペラの道が開かれた。

名が示す通りハーフ。

午後6時、佐世保市のア

ルカスSASEBO。夏

休み、進路ばく然の高校

生の心にも響くかもしれ

ない。問い合わせは09

56・85・2027。

佐世保支局長 小川敏之